

# 旅して心も地域も元気に

フリーアナウンサー

青山 佳世



秋、日本の風景が色とりどりに染まる最も美しい季節、一方、豪雨や台風に見舞われる気の置けない季節でもあります。この度の台風19号によって亡くなられた方に心よりお悔やみと、被災された方や地域にお見舞いを申し上げます。1日も早い復旧をお祈りいたします。

広いエリアでの河川の氾濫、土砂崩れなど、尋常ではない災害が、毎年、当たり前のよう発生する時代になりつつあります。かつては頻繁に氾濫が起こっていたこ

ろも、ダムの整備や河川改修が進んで氾濫の発生が激減しましたが、逆に自然の脅威に対する心構えが薄くなってきたとも言われています。またこれまで氾濫などが起こらなかった都市部や中小河川での氾濫も目立つようになり、全ての人に防災の意識が必要になってきました。

復旧のお手伝いにボランティアでご当地にお邪魔するとか、もう少し落ち着いたら、被災地を訪れて、その復旧の状況をみんなで共有しながら、メールを送るとい

形もあります。「復興ツーリズム」と呼ばれ、東日本大震災などでも多くの方が参加され現地に伺っていますし、被災地の方も日常生活も大変な中ですが、私たちを温かく迎えてくれました。少しでも励みや応援になれば、まして負担をかけては決していけないというルールの元でお邪魔するので、逆に私たちの方が励まされることが多いのが現実で、心苦しくも気持ちちは熱いのです。

「観光」という言葉は、中国の

古い書物「易経」にある「国の光を觀る」が語源とされています（私なりの解釈も含めますが、国を司る王が、国の光である地域の活力、光を觀て歩いて徳を積みながら国を治めるとのこと）。「国の光」―個性豊かなその土地ならではの文化や習慣、産業を觀て歩き、地元の味を食し、体験や発見をすること―で自分自身に深みや元気が生まれます。住む人が安心して暮らせるような防災にどのように向き合っているかという視点も、まさに国の光ですね。

旅に関わり、かれこれ30年、旅した先はおよそ800市町村。旅番組や取材を通して様々な土地や仕事の現場を見てきました。美しい田園風景、歴史的な街並み、住んでいる土地を誇りに思う人々、驚きと感動の瞬間に出会いました。そして思わぬワクワクするテーマを見つけました。迫力あるインフラ、例えばダムや砂防堰堤、高速道路、トンネルの切り羽（掘

り進む先端部分のこと）などの社会資本を作る現場です。セメント工場で原料となる石灰石を採掘するダイナミックな現場。昼間見ると煤けたように見えるコンビナートも、夜になるとオレンジ色に輝く幻想的な風景に様変わり。「カッコイイ」のです。最初の頃、現場の皆さんに、「こういう工場の風景、一般の人に見せてください。こんな凄いい仕事を見たら、きっと感動するし、仕事の理解につながります。」と伝えました。でも現場の方々は、「安全上の問題もあって、人に見せるようなものはありません」と冷やかな表情でした。現場からすれば、ダムの役割や工場の取り組みなど、多くの方に知っていただくまたとない機会になるはずだと考えました。それから20年余り、状況は様変わり、インフラツーリズムは、インスタ映えすると人気の「工場萌え」など、大人気の観光テーマになりました。今や現場の皆さん

もご自分の仕事を誇らしげに語ってくれています。

そして旅先の魅力と、そこへどう移動するかも楽しみの一つです。地域の個性を生かしオシャレな鉄道も各地に増え、超豪華列車の旅も大人気です。

金沢から能登半島、和倉温泉を結ぶ観光列車「花嫁のれん」号。花嫁のれんは、石川県などに伝わ



能登半島を走る「花嫁のれん号」



「のと里山里海号」

る婚礼のときに用いられる特別な暖簾のこと。加賀友禅、輪島塗をふんだんに使った乙女心をくすぐる鮮やかな仕様です。今年から「花嫁のれん 第二章」として、貸切バスも運行しています。そして和倉温泉から穴水には、のと鉄道の観光列車「のと里山里海号」に乗り換えです。鉄道は車に比べ環境にも優しく、またローカル線の存続という意味では、地元の方々だ

けではなく、旅人も使うことで、路線の維持にも貢献できるというわけです。

皆さんは、行政と住民との懸け橋をしてくださっていますが、旅先には、その土地の魅力を自分の言葉で語ってくれるボランティアガイドの方々がいて、旅に彩りを添えてくれてありがたいですね。

もう一つ注目すべきは、各地で行われている自動運転の実証実験車です。是非乗ってみてください。すでに一般の車で、車間距離維持などの技術は実用化されていますが、次のステージに向けての社会実験が行われています。高齢化が進み、免許返納なども課題になっていますが、AIや自動運転を活用して、いかに住民の方の移動を確保するか、ことに中山間地域にとっては深刻、緊急のテーマです。永平寺の門前町である、福井県永平寺町は、2002年に廃線になった鉄道の跡を遊歩道として整



車いす対応の実証も行われる自動運転車(永平寺町提供)

備していましたが、そこに、自動運転の「グリーンスローモビリティ」(低速電動バス)を走らせようと実証実験中。電動ゴルフカートをちよつとオシャレに仕立てた感じ、バスには運転手さんは乗っておらず、離れた場所から2台を遠隔操作、監視します。ゆっくりと廃線跡を走って永平寺へ向かいます。2020年の実用化に向けて頑張っているところですよ。



群馬大学の研究開発による「e-COM10」大分での実証

他にも観光地などで引く手あまたの、群馬大学が研究開発した可愛い10個のタイヤのある自動運転バスなど、一般車とは異なるユニークな車もあります。この先しばらくは、自動運転車と一般の車が混在して走るようになります。来たる車社会、暮らしはどうなるか想像しながら、観光とともに楽しんでみてはいかがでしょうか。

最近「SDGs」という言葉をよく耳にするようになりました。国連が提唱する「持続可能な開発目標」です。17の

して、その土地で暮らせるように、皆さんとともに何かお手伝いができれば嬉しいです。

Goal 11. 住み続けられるまちづくりを  
人口集中する都市部はもちろんです、どこでも誰でもいつでも安心

GOAL があり、人権、環境、エネルギー、技術などのあらゆるテーマが盛り込まれています。国、自治体、企業、そして個人、それぞれの立場で何か必ずできることがあります。観光もまちづくりも、技術開発も全て持続可能でないと。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

<p>1 貧困をなくそう</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p><b>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</b></p> <p>2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です</p>